中原　泉
一枚の写真
㊲

わが国唯一の「医の博物館」

私は，両学部の新入生オリエンテーションの冒頭に，決まって麻酔法の発見者 H.Wells の肖像をスライドに映す。キョトンとする彼らに，「医学の三大発見の一つ，麻酔法を発見したのは歯科医師なんですよ」と説いた。

元々，歴史に興味のある人と無い人は半々だが，自分の専門とする学問の歴史に無関心な人は軽侮する。私は，中原 實，山崎 清 以降途切れていた歯科医学史のあとを継いだ。

当時，非常勤講師の本間邦則（第45回卒）が，日本歯科医史学会を牽引する医学史家であった。たまたま彼は，新潟県の山形県境の府屋に開業していた。癇癖で，本業を放って医学史研究に没頭していた。

私と本間は，学内外の手近な史料を掻き集め，昭和52年（1977）４月，新潟歯学部の本館２階の倉庫に歯科医学史料室を開設した。“中原の趣味”と冷かされながら，10余年間，年々，窓のない一室に収集史料がふえて収容しきれなくなった。

８号館の新築を機に，その２階に公共的なミュージアムを計画し，50坪の展示室を設けた。建築の最中，本間がＣを患い医科病院に入院した。竣工後，毎日，彼は病室から展示室に通った。ふたりで，陳列ケースに展示物を並べるのに３ヵ月かかった。

古医書や医療器具等が，広くはないがモダンな室を所狭しと埋めつくした。収蔵品は約5,000点，すべて本物で，すべて寄付・寄贈に由った。

医学博物館では固すぎるので，「医の博物館」と命名した。当時は，珍しいネーミングだった。公共の博物館として県の指定をうけた。わが国最初の医学博物館であり，30年たった現在でも唯一の医学博物館である。

平成元年（1989）９月４日，開館式には県内のメディアが蝟集した。テープカットでは，私は一生に一度のフラッシュの嵐を浴びた。学内外の人々が，館内に群れあふれた。じきに，博物館は新潟歯学部の目玉になった。内外から客人がくると，みな，真先にここへ案内した。

パリ第七大学の大の仲好しの Kelerman 教授夫妻は，「なぜ Fauchard が，ここにあるの！？」と，黄色い悲鳴をあげた。「パリにもないわよ！」彼女の瞳には，歯科医学の祖 P.Fauchard の『外科歯科医』の初版，第二版，第三版，独乙語版の原本が並んでいた。

同志本間邦則は，開館を見届けて翌年10月12日に58歳で亡くなった。

（写真：開館式後の懇親会。左から谷津三雄〈日本歯科医史学会理事長〉，本間邦則，中原 泉，蒲原 宏〈のち日本医史学会理事長〉）